

かいなん 海南市



HPアドレス <http://www.city.kainan.wakayama.jp/>

市名の由来

この地域は、1896（明治29）年に当時の ^{なぐさ}名草郡と ^{あま}海部郡が ^{がつべい}合併して生まれた海草郡の南部に位置したので、言葉を縮めて「海南」と呼ばれるようになりました。また、海南中学校が創立されたころ1922（大正11）年から、「海南」は新聞などでの慣用語となり、1934年（昭和9年）の市制施行の際、そのまま使用されました。

2005年（平成17年）の合併時には、全国公募によって新しい名称が検討されましたが、地理的なイメージを持ちやすいことや、歴史や伝統があり全国的にも知名度が ^{ちめいど}高いという理由などから、「海南市」に決定しました。

市章の由来

市章については、全国から1,509点の ^{おうぼ}応募があり、^{しんさ}審査の結果、現在の図案が採用されました。

2つの緑は海南市の豊かな自然と市民が共生・交流・協調する様子を、青は海を表し、^{めぐ}恵まれた環境の中で優しさ ^{めぐ}と安らぎが輪となって、のびのびと広がってゆく「元気 ふれあい 安心のまち 海南」をイメージしています。

市の紹介

現在の海南市は、2005（平成17）年4月1日に海南市と下津町が合併して誕生しました。人口は約5万8千人（平成21年1月末現在）、面積は101.18平方キロメートル、和歌山県の北西部に位置し、北は和歌山市・紀の川市、東は紀美野町、南は ^{きみの}有田市・^{ありだ}有田川町に隣接し、西は紀伊水道 ^{すいどう}に面しています。

年間平均気温が約16度と四季を通し温暖な気候に恵まれていることから、南部ではミカンやビワの栽培 ^{さいばい}、北部ではモモの栽培が盛んです。特に本貯蔵 ^{ほんちよぞう}ミカンやビワは下津町地区の名産品で、全国的にも知られています。また、紀伊水道 ^{のぞ}を臨む沿岸部では、シラスやハモ、ワカメなどの海の幸にも恵まれています。

さらに、黒江地区周辺は日本四大漆器の一つである「紀州漆器」の産地としても知られ、経済産業大臣から ^{こうげいひん}伝統工芸品の指定を受けています。日用家庭用品（特に水まわり製品）の出荷も全国的に高いシェア ^{ほこ}を誇ります。

万葉の昔から和歌にも詠まれている名勝の地である海南は、いにしへの都人が訪れ詠んだ歌も多く、景色を愛で、恋する人を想う歌など14首が万葉歌碑として建っています。そして今も往時の面影を残す熊野古道が南北に通る、そこに9つの王子跡が点在して、当時の賑わいが偲ばれます。王子とは熊野参詣 ^{さんけい}の道中 ^{ようはい}で遙拝したり、休息や宿泊したりした場所で、歌会などが開かれたこともあります。現在も、王子や藤白峠 ^{ふじしろとうげ}からの素晴らしい眺め ^{なが}や魅力 ^{みりょく}ある見どころを訪れるハイカー達が多くいます。

加えて、下津町地区は文化財の宝庫といわれ、和歌山県下の国宝建造物7つのうち、国宝「長保寺本堂」「善福院釈迦堂」など、実に4つがあるほか、県史跡の「和歌山藩主徳川家墓所 ^{ぼしよ}」など、文化財にも恵まれています。

現在の海南市には、阪和自動車道の3つのインターチェンジがあり、また、JRでは全ての特急くろしお号が海南駅に停車するようになるなど、大阪市内や関西国際空港へのアクセスが非常に良好となっています。新市でさらなる発展が期待されています。



JR海南駅



熊野古道